

三郷のつどい報告

8/24(水) 26 名参加

会場:クリニックふれあい早稲田

多数の方が出席して、東部地区南端での初めての「つどい」が開かれました。宮下代表があいさつで触れたように、会の原点もこのようであったろうと思われる。切実で熱心な話し合いのひと時でした。人の顔が判らなくなった、朝になると徘徊する、トイレで倒れた、そして終末期の夫を自宅で看ている、などさまざまな苦労話が語られ、それらに適宜、大場医師(クリニック院長、C 会員)や世話人から助言がありました。最後には「また開いて欲しい」との声が多く聞かれました。

参加者には夫を同伴した方や、妻を夫・息子が連れてきた一家もいました。家族で支える実例を示してくださり、出席者に勇気を与えてくれたようでした。

全体としては出席者には会員外の方が多く、素朴な理解や今一步と思われる対応が少し気になりました。入会して「ぽーれぽーれ」や「ふれあい」を読むだけでも、知らないために生じる不安や苦労が軽減するのに、と感じました。

大場先生は、患者さんの家族の要望を聞いて、世話人と一緒につどいを企画し、場所も提供してくださいました。地域の方々にも呼びかけて、このように多くの方々をつどいことができました。ここを会場に定着したつどいとなれば、と願っています。